初の交流会で話し合う「はるそら」メンバーと県立大生ら

総社

認知症 理解深めよう

県立大生 初交流会 当事者ら団体

認知症への理解を深めてもらおうと、当事者や家族、支援者らでつくる一般社団法人「はるそら」（岡山市、多田美佳代表）と、県立大（総社市窪木）の学生との初の交流会が16日、同大で開かれた。今後は月1回定例会を計画。当事者らは「学生に理解あるパートナーになってもらいたい」と期待を寄せる。

はるそらは毎月2回岡山市内で集まり、会員同士の茶話会や、就実大生との交流を行っている。多田さんが県立大で保健福祉学部教授と知り合いで、県中北部の当事者も参加でき、ソーシャルワーカーを目指す学生の学びにもつながると、同大での開催を決めた。

初会合は当事者2人を含むはるそらメンバー7人と、学生8人、教授ら5人の計20人が参加。自己紹介の後、交流会の名前や、やりたいことなどの意見を出し合った。

当事者は「学生と何ができるか楽しみ」と話し、現代福祉学科2年溝口昌代さん(20)は「私にも認知症への偏見があるかもしれない。貴重な機会から学び、将来に生かしたい」と話していた。

（斎藤章一朗）

（C）山陽新聞社　無断複製・転載を禁じます。

2023年11月18日 山陽新聞朝刊 25ページ